

第1章 周南市の景観形成の現状と課題

1. 景観形成に関する取組状況

(1) 地域景観ワークショップ in 周南

平成16年10月～平成19年6月に、市民と行政の景観意識啓発・景観によるまちづくりのための人材育成などを目的に、鹿野地域を題材に全6回の地域景観ワークショップを開催しました。

ワークショップでは、まち歩きをして鹿野らしい景観を発掘したり、鹿野の色彩を調査したり、景観を守り育てる方策を考えたりすることで、身近にある良好な景観を活かしたまちづくりについて検討しました。



壁新聞の作成風景



壁新聞の一例

(2) CAA周南市の景観を考えてみよう

平成18年8月～平成19年3月に、景観による美しいまちづくりを推進するため、本市の景観の特徴及び課題を市民と協働で考えていくとともに、市民及び市職員の景観への意識を高めることを目的に、「周南市の景観を考えてみよう」をテーマにCAA事業を実施しました。

CAAとは公募委員と学識経験者などで構成される委員会です。全6回の会議の中で、中心市街地をタウンウォッチングして景観特性を把握し、今後の課題や景観を守り育てる方策を考え、提言書にまとめました。



タウンウォッチング（平和通り）



壁新聞作成風景

(3) 鹿野らしさ発見!?チキチキウォークラリー!!

第6回地域景観ワークショップの中で、鹿野の景観を守り育てるために、みんなで取り組む活動として発案された企画「ウォークラリーの開催」の実現に向けて、鹿野地元住民、NPO法人、建築士会、行政関係者で実行委員会を組織して取り組み、かのふるさとまつりの中で継続的に開催されています。

鹿野の景観を感じながらクイズに答え、鹿野のまちに興味や愛着を持つことで、景観について考えるきっかけづくりを行いました。



岩崎家前での参加者



二所山田神社境内にて

(4) 地域による景観形成に関する取組

その他の地域において、資源を活用した景観形成に関する取組が行われています。

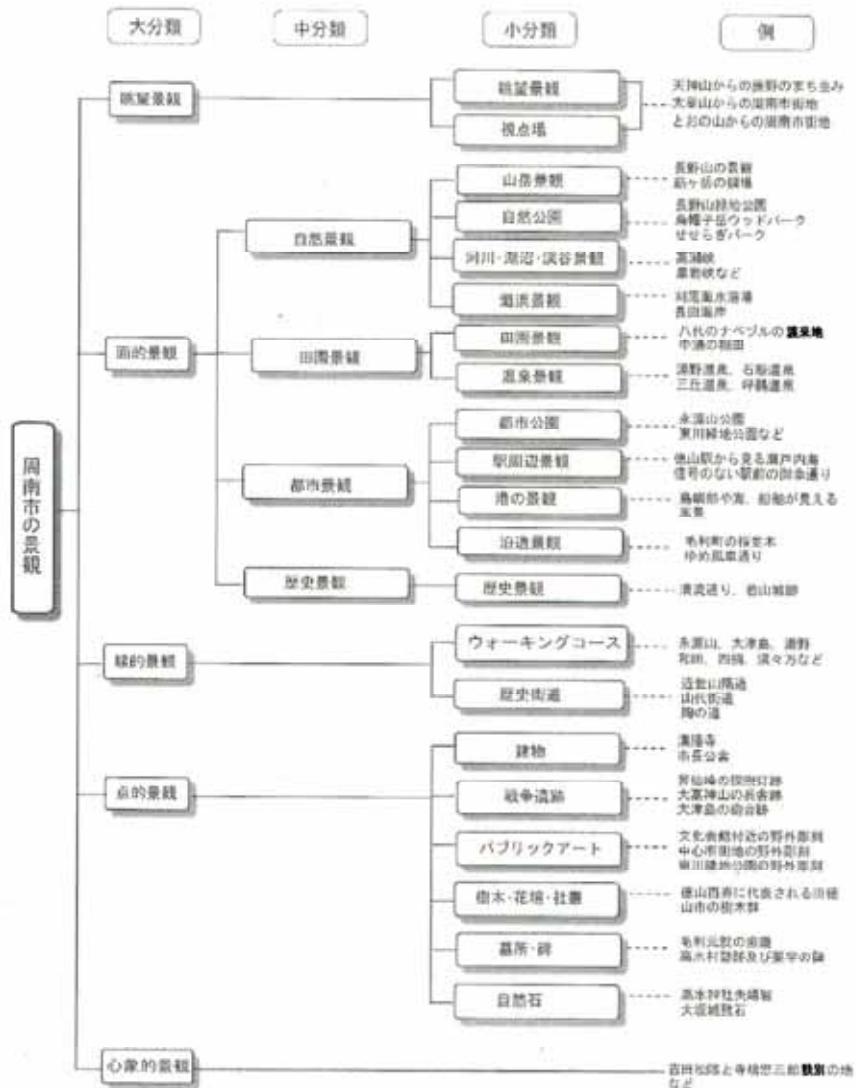
【地域資源を活用した主な取組】

- ◆中須北における「棚田清流の会」の取組
- ◆徳山市教育委員会による徳山百樹選定の取組
- ◆東川を市民のコミュニティの場として活用する取組
- ◆とおの山を整備し地域の人に親しんでもらう取組
- ◆「平成の名水百選」選定を実現した鹿野コミュニティの活動
- ◆「大道理をよくする会」の取組
- ◆ひと・輝きプロジェクト（わたしのまち発見プロジェクト）の取組
- ◆周南市長公舎の歴史的価値を調査する取組
- ◆地域住民・市・ボランティアが一体となったナベヅル保護の取組
- ◆周南市観光ボランティアガイドの会の取組
- ◆「ゆめ風車通り」を整備し活用する取組
- ◆通行する人に安らぎを与える花壇の整備
- ◆カラーコーディネーションを取り入れた製油所の設計

(5) 景觀資源調查

平成20年度の「周南市景観計画策定準備業務」において、景観資源調査を実施し、景観分類や本市の景観特性を整理しています。

【周南市の景観資源分類】



【線的景觀】



<山代街道>



＜山陽道のまち並み＞

【卓的景觀】



<回天訓練基地跡>



＜びーえっちどおりバブリックアート＞

【眺望景觀】



＜縁山から見る瀬戸海＞



＜学園台から見る瀬戸内海と夕日＞

【面的景觀】



〈黑社會〉



＜湯野温泉の足湯＞



〈馬島漁砲〉



＜信号のない徳山駅前通り＞

【心象景觀】

- ・寺嶋忠三郎誕生の地
 - ・吉田松陰と寺嶋忠三郎訣別の地

2. 景観に関する市民意向

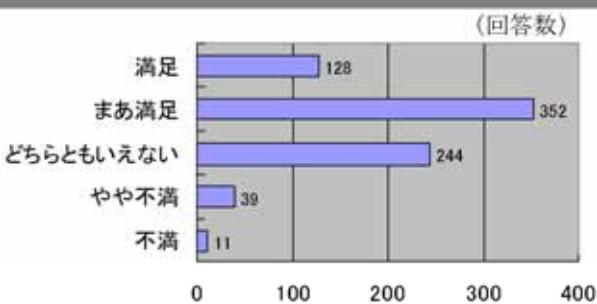
市民の「景観」に対する意向・意識を把握するため、市内小学5年生の児童とその家族（平成22年2月8日～19日）及び市内の高校・大学に通学する生徒・学生（平成22年4月12日～30日）を対象に市民意識調査を実施しました。

（1）景観の満足度

本市における景観満足度は、山、海、河川等の眺望景観（遠景）の満足度が高く、自然景観や歴史景観に対する満足度も高くなっています。

一方、駅周辺や中心市街地の景観の満足度が低く、本市の顔としての景観形成が求められます。

山、海、河川等の眺望景観（遠景）に対する満足度



駅周辺や中心市街地の景観に対する満足度

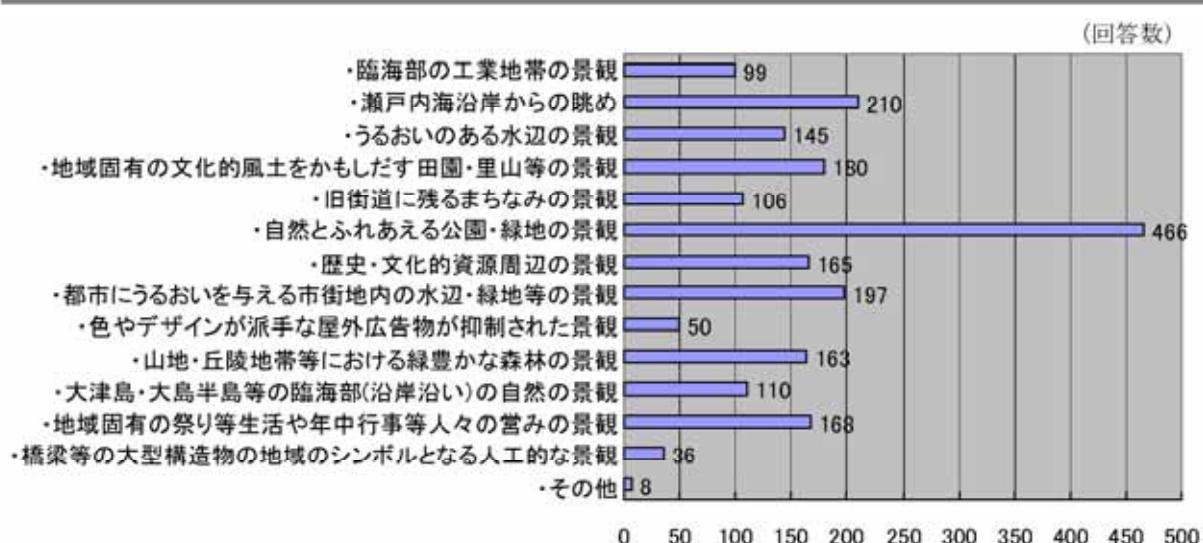


（2）周南市の美しい景観と景観阻害要因

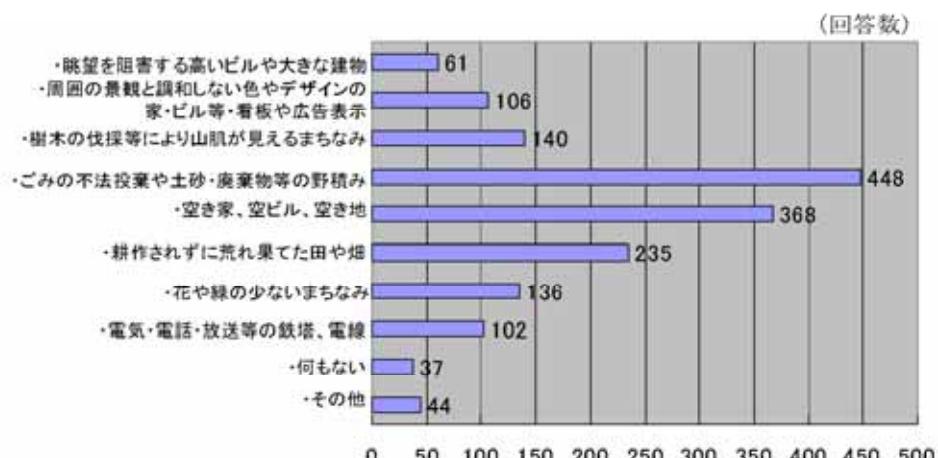
本市の美しい景観としては、自然とふれあえる公園・緑地の景観が最も多く、市街地においても緑が多い状況が本市の景観特性といえます。

一方、景観を損ねているものとしては、ごみの不法投棄や土砂・廃棄物等の野積みがあげられ、特に幹線道路沿道では適切な管理・規制が求められます。

周南市が美しい景観や眺めを守り、育てていくため、大切にしたいもの



周南市の景観を損ねているもの

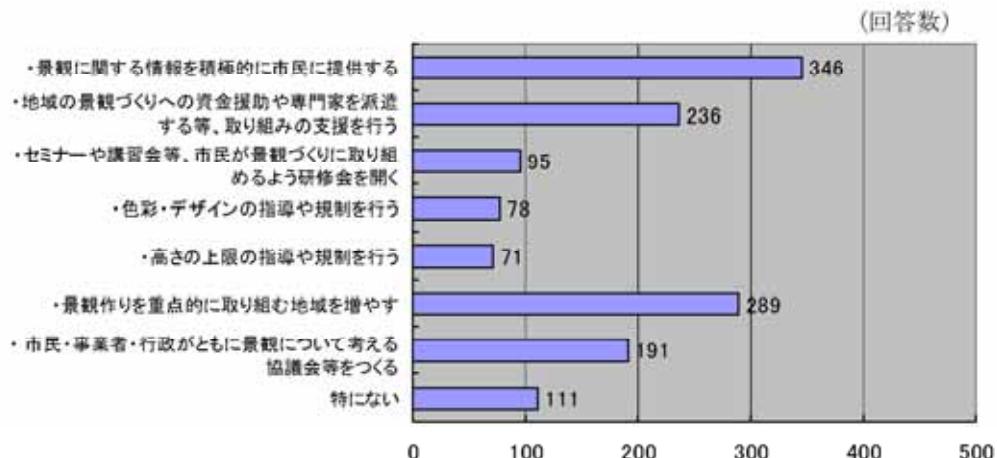


(3) 景観づくりの方針

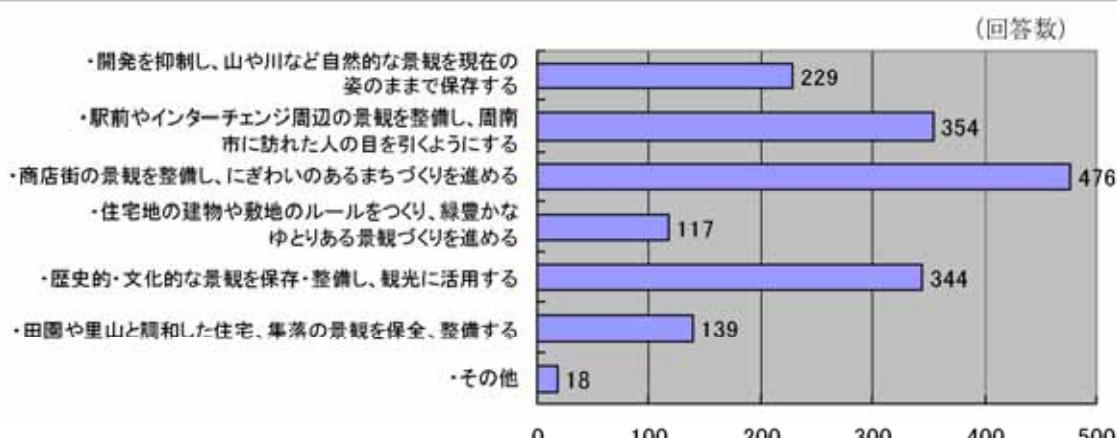
景観形成に向けて行政が取り組むべきことについては、市民への情報提供や重点的な取組が求められており、市民への情報発信を行いながら、モデル的な景観まちづくりの取組が必要です。

周南市らしい美しい景観づくりに向けて、大切だと思うことについては、商店街を中心とした賑わいあるまちづくりが求められており、徳山駅を中心に重点的に景観形成に取り組む必要があります。

周南市の景観を守り、良くしていくための行政が取り組むべきことや支援



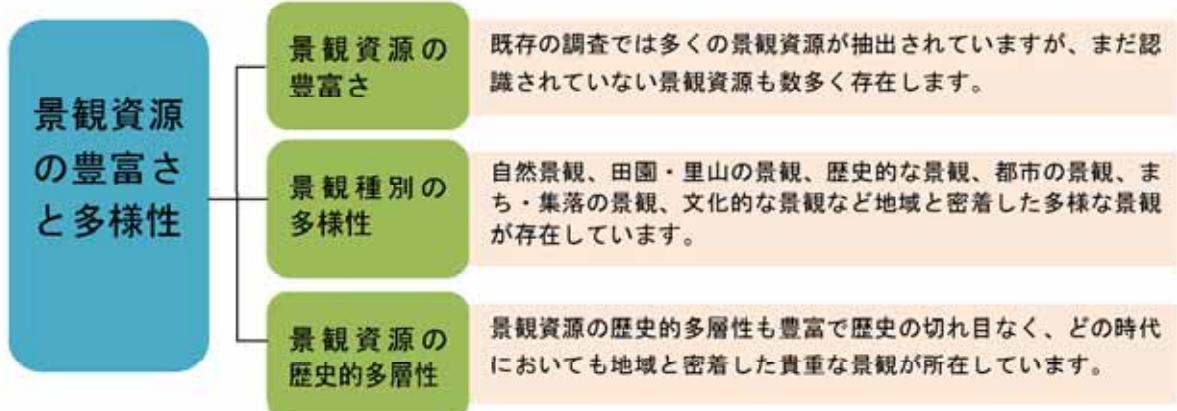
周南市らしい美しい景観づくりに向けて、大切だと思うこと



3. 景観形成の現状と課題

(1) 周南市の景観の現状と特質

① 景観資源の豊富さと多様性



景観資源の豊富さ

本市の景観資源は数多く存在します。既存の調査や市民のアンケート及びワークショップにより、大変多くの景観資源が抽出されています。今後も、地域による発掘により、更なる景観資源の蓄積が求められます。

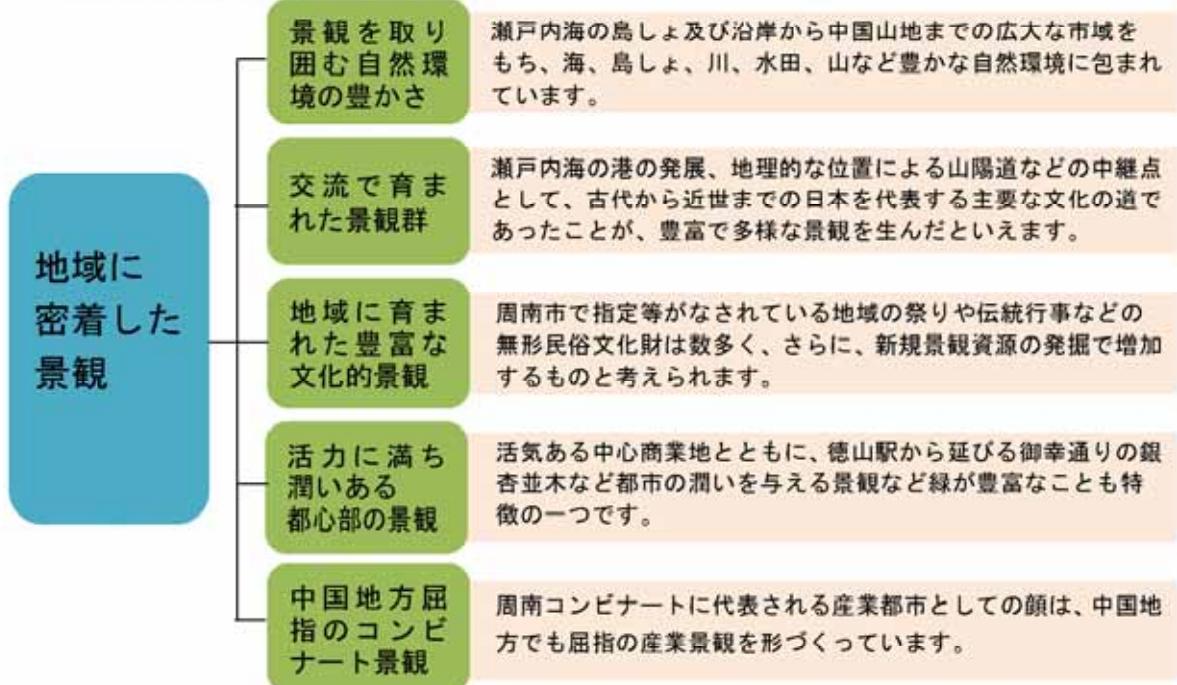
景観種別の多様性

本市の景観種別も極めて多様であり、自然景観としての山岳・渓谷等の景観（長野山、高瀬峡など）、海浜・島しょ等の景観（長田海岸、大津島など）、暮らしの営みとしての田園・里山の景観（棚田、茶畠など）、歴史的な景観（呼坂宿、鹿野、街道など）、都市の景観（御幸通り、コンビナートなど）、まち・集落の景観（赤瓦の集落景観など）、文化的な景観（無形民俗文化財、集落の伝統行事など）と、景観種別のほとんどが網羅されているのが特徴です。

景観資源の歴史的多層性

市内の景観資源を歴史的にみると、これまでに竹島古墳などの遺跡が発見されており、古代、律令国家唯一の大路「山陽道」が通り、富田において平野駅家が置かれていたことなどを考えると、今後も調査などによる更なる発見が期待されます。中世には東大寺の荘園の集荷地として、瀬戸内海でも有数の港「富田の津」を擁し、若山城跡や勝栄寺などの文化遺産があります。近世には富田、福川、呼坂が山陽道の宿駅、市場町として栄え、今も名残をとどめています。江戸時代には、毛利家の遺産が多くあり、徳山の城下町としての基盤が整えられ、また、福川には福川本陣が置かれ、呼坂には呼坂本陣が置かれ、地方行政の中心として重要な役割を果たし、萩と岩国を結ぶ山代往還と呼ばれる街道が通る鹿野地域は、街道の拠点として本陣が置かれ、この地域の交易の中心となっていました。これらの遺産が景観の素地となっています。近代においては、明治38年に海軍煉炭製造所が設立され、これを契機に大正期には工業都市化が一気に進みました。終戦直後の昭和21年には戦災復興土地区画整理事業に着手し、同30年代にはほぼ事業が完了し、現在の中心市街地の基盤が形成されて、都市景観の基礎となっています。

②周南市の景観の特質



景観を取り囲む自然環境の豊かさ

本市は、瀬戸内海の島しょ及び沿岸から中国山地までの広大な市域をもち、海、島しょ、川、水田、山など豊かな自然環境に包まれています。この自然風土と不可分な精神性が自然と深く関わることで有形・無形の景観が大切に残されてきたといえます。とりわけ、高瀬峡などの渓谷、平成の名水百選に選ばれた潮音洞と清流通り、棚田など水に関わる自然が多いとともに、ナベツルの里など貴重な生態系があることも特徴の一つです。

交流で育まれた景観群

自然地形を活かした港の発展、地理的な位置要因による山陽道、山代往還などの中継点として、古代から近世までの日本を代表する主要な文化の道であったことが、豊富で多様な景観群を生んだといえます。この交流の地域的特徴を活かしたまち・集落の景観の形成が必要です。

地域に育まれた豊富な文化的景観

本市で指定等がなされている無形民俗文化財は数多く、さらに、資源の発掘で増加するものと考えられます。これらは、本市の自然、歴史、交流に育まれて存続してきたものであり、本市の小さな集落など津々浦々に暮らしとともに存在していることも大きな特徴の一つです。

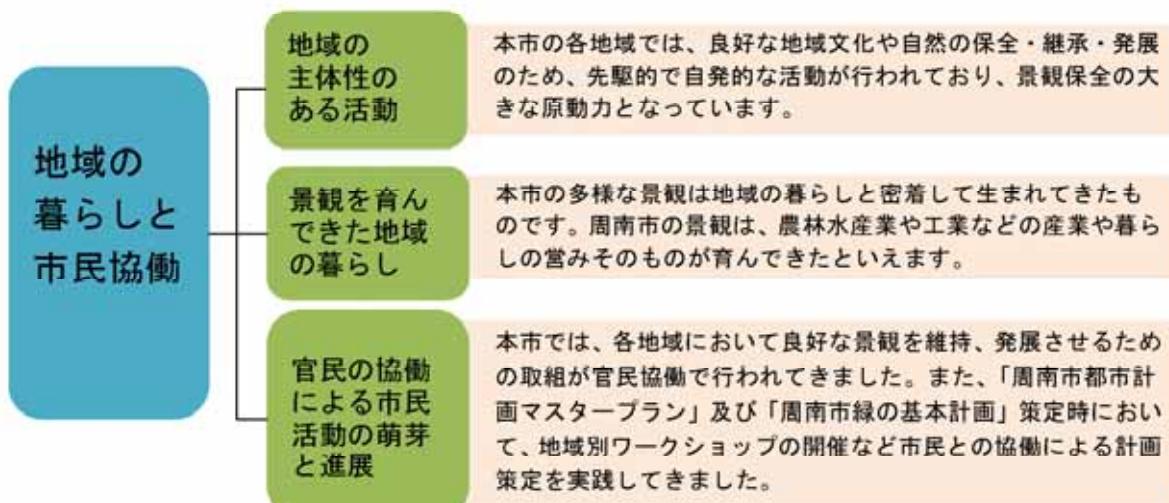
活力に満ち、潤いのある都心部の景観

都心部においては、活気ある中心商業地とともに、徳山駅から延びる御幸通りの銀杏並木など都市の潤いを与える景観など緑が豊富なことも特徴の一つです。

中国地方屈指のコンビナート景観

周南コンビナートに代表される産業都市としての顔は、中国地方でも屈指の景観を形成しています。特に、光に包まれたコンビナートの夜景は、新幹線からよく望まれ、市外から帰ってきた市民が、ふるさとを実感できるシンボル的な景観となっています。

③周南市の景観を守り育ててきたもの



地域の主体性のある活動

本市の景観を守り育ててきたのは、本市の各地域で、良好な地域文化や自然の保全・継承・発展のため、先駆的で自発的な活動が、景観保全の大きな原動力となっています。

徳山駅周辺では、御幸通りの銀杏並木の育成や無電柱・無信号化、公園整備と緑化の推進、「徳山百樹」の選定などがあり、周辺部では農山村事業などを通じての棚田や森林の保全及びナベヅル保全の取組などがあります。

景観を育んできた地域の暮らし

本市では実に多様な景観が見られます。それらは地域の暮らしと密着して生まれてきたものです。本市の景観は、農林水産業や工業などの産業や暮らしの営みそのものが育んできたといえます。

官民の協働による市民活動の萌芽と進展

本市では、景観法成立以前、各地域において良好な景観を維持、発展させるための取組が行われてきました。また、現在も、民間のボランティア団体、自然保全団体、観光ボランティアなどが数多く活動しています。

それらとともに、景観法制定以後に取り組んだ「周南市都市計画マスターplan」及び「周南市緑の基本計画」策定時において、地域別ワークショップの開催など市民との協働による計画策定を実践しており、今後の計画策定や実現のプロセスにおいても、市民協働が柱になるものと考えられます。

(2) 景観の保全と創造の課題

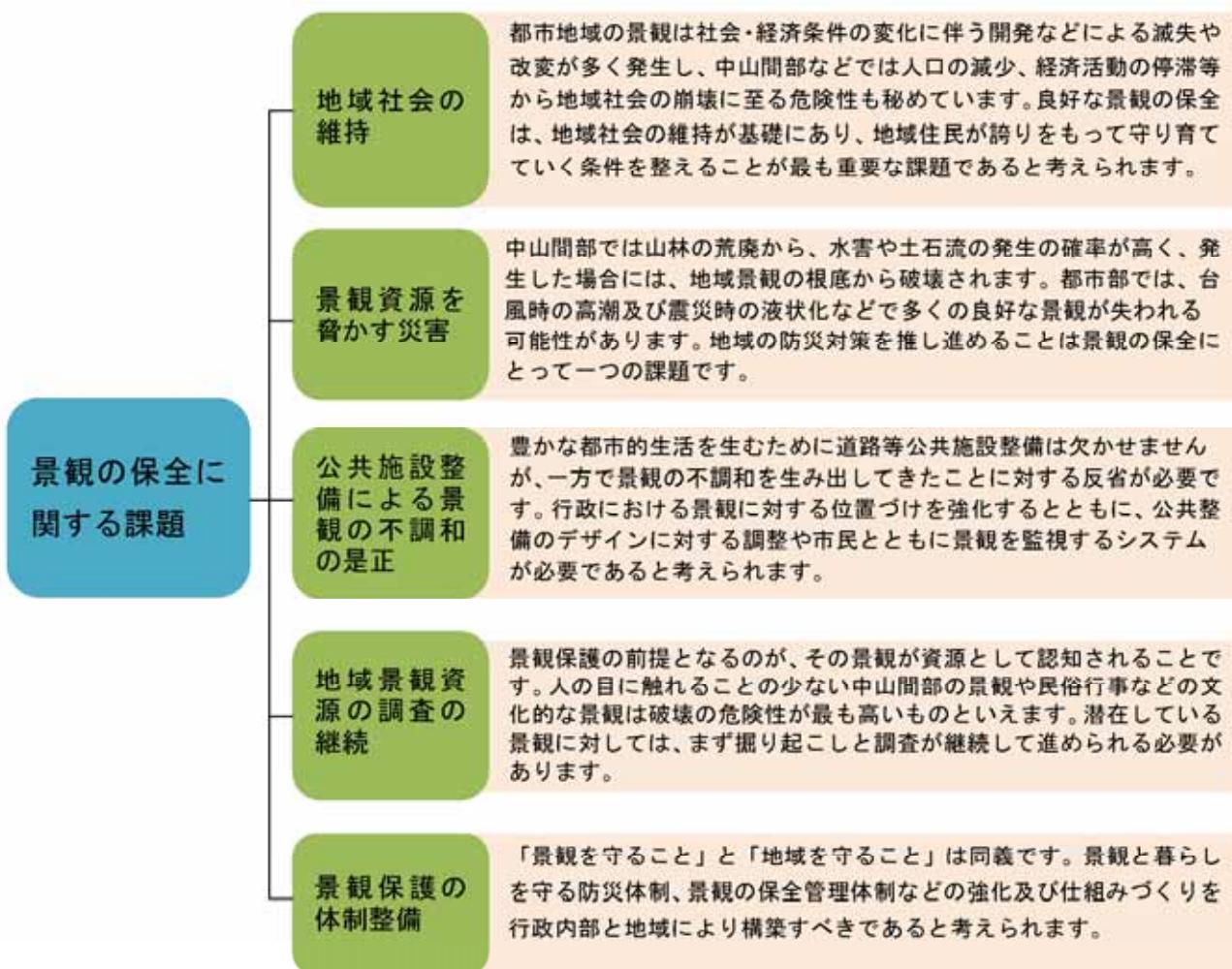
① 景観の保全に関する課題

良好な景観の保全は、地域社会の維持が基礎にあり、地域住民が誇りをもって守り育てていく条件を整えることが最も重要な課題であると考えられます。また、近年増加している景観資源を脅かす自然災害に対しては、地域の防災対策を進める必要があり、景観の保全にとっても、重要な課題です。

公共施設整備による景観の不調和などについては、公共事業における景観の位置づけを強化する必要があります。潜在している景観に対しては、まず掘り起こしと調査を継続して進め、保全を担保する措置を適切に行っていくことが大切です。

景観を保全するためには、景観と暮らしを守る防災体制、景観の保全管理体制などの強化及び仕組みづくりを地域と行政で構築すべきであると考えられます。

【景観の保全に関する課題】



②景観の創造に関する課題

景観の新しい創造は地域のコミュニティを支え、地域の誇りと活力を生み出すものでなくてはならないと考えます。これらの景観を身近なものにしていくために、景観資源の情報発信をしていくとともに、市内の地域間交流を促進していく必要があります。

国際的には、本市はデルフザイル市（オランダ）、タウンズビル市（オーストラリア）、サンペルナルド・ド・カンポ市（ブラジル）の3都市と姉妹都市提携をしています。いずれも、産業港湾都市であるとともに、歴史的なまち並みも有しています。国際的な交流を通じて、本市の特徴ある景観の発信に努める必要があります。

景観の保全・創造と地域の活性化を図る体制などの仕組みづくりを地域と行政で作り上げることが大きな課題です。

【景観の創造に関する課題】

